

府立・市立高校再編整備計画で また公立高校がつぶされる

8月30日、府教委の教育
委員会議で、「府立高校・
市立高校再編整備計画」
(案) が了承されました。

重点項目は「学校の配置」
「普通科総合選択制の改編」
「エンパワメントスクール
の設置」の3点で、計画期
間は2014 から2018年度までの
5年間で。

中学卒業生増なのに 7校募集停止

「学校配置」について、
府教委は、府内中卒生減少
を理由として、府立・大阪
市立あわせて7校程度の公
立高校を募集停止にする
としています。

ところが、現在府内公立
中卒生は増加しており、来
年度にピークを迎えます。
その後は減少に転じますが、
今回の計画期間終了の2018年
度でも2009年度を上回る見込
みです。

これまでの公立高校つぶ
しの結果

- ①全日制不合格者が増えた
ため、夜間定時制2次募集
志願者が、11年度102人↓13
年度34人と3倍以上に増加。
- ②私学の広域通信制(学費
負担が少なく、昼に通える)
を中心に通信制入学者も20
%以上↑331人増加。
- ③このため、私学・国立も
含めた中卒生の全日制高校
進学率は昨年比0.2%低下。
今必要なことは、まず公
立高校全日制的受け入れ増
と、それを通じた大阪の全
日制高校進学率引き上げで
はないでしょうか。

私立進学急増の 年を基準に推計

「7校程度の募集停止」
は、公立の受け入れ比率の
低かった2012年度選抜(私立
高校の「無償化」により、
私立進学者が急増)の公私

比率をもとに推計したもの
です。来年度以降に予想さ
れる高校学費の有償化(所
得制限導入で22%が対象外
へ)、さらに消費税導入な
どが、公立高校への進学希
望が増えることは必至です。

今回の乱暴な推計は「公
立高校は就学保障の役割を
担う」という府教委自身の
基本的立場にも反します。

現段階で「募集停止」の
校名やスケジュールは明ら
かにされていませんが、校
名は近々公表されると思わ
れます。受検生にとっては、
志願の時点で「あなたたち
が最後の入学者」と宣言す
ることになり、不本意入学
を助長したり志願動向に混
乱を生じさせたりすること
も懸念されます。

本当に受検生のこ とを考えた再編か

府教委は、現在ある普通
科総合選択制高校のうち、

「職業系のエリア選択者の
多い学校」等は総合学科へ
改編(エンパワメントスクー
ルへの改編も含む)、「進
学者が多い傾向にある学校」
等は普通科専門コース設置
校に改編するとしています。

成美高校・伯太高校など
の普通科総合選択制高校は、
最初は前期・後期両方募集
↓前期のみ募集↓後期のみ
募集と短期間に入試制度が
コロコロ変わり、その度に
受検生を悩ませてきました。

本当に行きたい 高校になるのか

府教委は、義務教育段階
からの「学び直し」のカリ
キュラムを徹底した「エン
パワメントスクール(総合
学科)を10校程度設置する
としています。改編対象校
は全日制普通科(総合選択
制・単位制を含む)、クリ
エイティブスクールの中か
ら選定。ホームルームは1
クラス35人程度、全校ヘス
クールソーシヤルワーカー



の配置を検討するとしてい
ます。

大阪には、過去クリエイ
ティブスクールが鳴り物入
りで設置されながら、全日
制高校入学希望者が本意
にやむを得ず入る学校とな
り、結局は普通の全日制高
校になった歴史があります。

「理念」を空文化させな
いために、全ての中卒生
が全日制的条件で高校教育
を受ける機会が保障される
ことが前提です。その上で
自ら希望してこうした学校
へ入学するという形になら
なければなりません。その
ためにも公立高校全体の受
け入れ枠拡大が必要なので
はないでしょうか。

組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう！